

令和4年度 住まい環境整備モデル事業
【事業育成型】

提案内容の概要

事業名称：「自立のための3歩の住まい」の標準モデルの構築による高齢者を支える住まいの普及促進

代表提案者：公益財団法人ふじのくに医療城下町推進機構



1. これまでの取組

ファルマバレープロジェクト・医療健康産業の集積と発展

高齢者の理想の住環境
人生100年時代の住宅整備プロジェクト

 静岡県

地元自治体



 静岡県立
静岡がんセンター

企業
コンソーシアム

令和3年3月 モデルルームオープン

自立のための 3歩の住まい

2. 現状・問題意識

- ・静岡県の高齢化率（30.1%）
全国平均（28.8%）より高い
- ・県内の独居又は夫婦のみの高齢者世帯の増加
10年で1.4倍
- ・平均寿命と健康寿命の差は、約10年

健康寿命が尽きた後の暮らしをどう支えるか？

高齢者の自立を支える機能を持つ住環境が必要

3. 提案内容

「自立のための3歩の住まい」とは

特徴1 3歩から考える

トイレ・シャワーまで3歩で行ける
ベッド中心の設計

特徴2 医療介護部屋

感染症対策等の
高齢者の命を守る機能

特徴3 ロボット化・AI化

高機能介護ベッド等
高齢者の生活を支える最新機器

特徴4 家族・社会との絆

高機能ディスプレイで
外とのつながりを実現



651名の見学者の意見を
今後の改良につなげる

3. 提案内容

「自立のための3歩の住まい」の標準モデルの構築

技術の検証

- ① 標準モデルの検証
- ② 設計サンプルの検証

専門家調査

- ・ヒアリングシートへの記入
- ・意見交換会の実施

一般見学者の意見分析

冊子に
取りまとめ

「標準設計マニュアル」

構成する機能ごと、設備設計、空間設計、快適設計、生活設計などの観点から標準モデルとする内容の提示

「設計サンプル」

高齢者のおかれた環境ごと標準マニュアルで提示する機能や要素の効果的な組み合わせを提示。

情報提供・普及

冊子の配布／普及セミナーの開催

「自立のための3歩の住まい」実装化

4. 期待される成果

建築・介護福祉関係者への周知
建設の促進



連携する自治体による
新たな高齢者サービス

一人でも安心して暮らせる環境整備

IoT・ICTの活用により、高齢者住まいをネットワーク化
高齢者にとって優しいまちづくりにつながる

・工夫された間取りや空間設計、県の機関が提供する優れた住宅設備・機器等の情報、国の指針やガイドラインに沿った住まいの提案

⇒安心・安全・快適な住まいの選択機会の提供⇒早めの住み替えや改修への動機づけ

・新築を検討する若い世代が長く我が家に住み続けるため、将来の改修を見据えた建築プランを提案

⇒高齢者の住宅確保問題の解決

・地域工務店等による標準設計マニュアルを活用したパッケージ商品の販売

⇒高齢者のための多様な住まいの普及



5. 「事業育成型」終了後の計画

